

(様式第1号)

平成26年度第1回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日 時	平成26年10月14日(火) 14時～15時30分
場 所	芦屋市立図書館本館2階集会室
出席者	委員長 梓 加依 委員 北里 佐和子 委員 熊本 潤子 委員 白水 雅子 委員 松本 淳子 委員 水谷 孝子 事務局 社会教育部長 中村 尚代 図書館長 丸尾 恵子 図書館係長 長谷川 真弓 臨時的任用職員 延永 奈央
欠席者	芝 勝徳 ・ 渡辺 宏子委員
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- ① 平成25年度決算報告
- ② 図書館運営の報告
- ③ その他

2 提出資料

- 資料1 平成25年度 決算説明資料
資料2 平成25年度 事務報告書(抜粋)

3 審議経過

(事務局挨拶)

(図書館協議会開会)

(梓委員長)

ただいまから、図書館協議会を開会します。

この会議は公開となっております。
芦屋市の情報公開条例第19条に基づき、ホームページにも掲げられますので、
よろしく願いいたします。

(事務局より、平成25年度の決算、事業について報告。)

平成25年度の決算報告は以上ですが、引き続き、平成25年度事務事業の
報告をさせていただきます。事業面について、市で作成している事務報告書を
抜粋したもので報告します。

(梓委員長)

この議事に関しましてご意見をお伺いしたいと思います。ご意見、ご質問あ
りませんか？

(質問なし)

では、二番目の図書館運営の報告をお願いします。

(事務局 丸尾)

はい、図書館運営の現状報告をさせていただきます。

今年の4月17日より、阪神芦屋駅の連絡通路と市役所地下駐輪場の間に新た
に返却ポストを設置しました。

返却ポストにつきましては、以前から市内にある打出分室・大原分室に設置し
て欲しいという要望があったのですが、建物の構造上設置が困難だったため、
別の場所に設置することを検討しました。

その結果、利便性、防犯面、返却本の回収のしやすさ、資料の保護を考慮し
た結果、一定条件を満たしていた現在の場所に設置することになりました。
設置直後は、利用が少ない状態が続きましたが、約6ヶ月が経過して利用も徐々
に増えており、設置当初より約4倍の利用となっています。
特に7～8月の夏休み期間の利用が増えました。設置から現在までで1日平均
31冊の返却がありました。こちらについては、引き続き、利用状況を把握し
ていきたいと考えています。

蔵書点検につきましては、今年の6月3～5日に大原分室、11、12日に
打出分室、14～23日に図書館本館という日程で行いました。その結果、本
館・分室とあわせて728冊本が不明となっていることが判りました。
前年度度が1016冊とここ数年の中で突出して不明本が多かったため、今年
に入り、啓発ポスターを掲示したり、新着本の不明本が多かったことから、職
員会議の場で新着本の不明を減らす方法を検討・実施した結果、減少させるこ
とができました。

当館の不明本は社会科学、家政学の本(手芸・料理)、日本の小説、新書など

が多く、全体の約3割が出版から1年以内の本、全体の1割強が新着本にあたります。先ほど報告させていただきましたように、無くなりやすいジャンル毎に対策を検討したところ、効果がみられましたので、今後も不明本対策について検討していきたいと考えています。今年度の報告については、以上です。

(梓委員長)

ありがとうございました。今年度の特徴ある部分について報告いただきましたが、今の2つの件について何かご質問ございますでしょうか。

新しいポストをご覧になった方はいらっしゃいますか？

(北里委員)

シルバーの地味なものでしたが、見ると大きさもあり、駅にあるので便利だと思います。自分は図書館のほうが近いので利用することはありませんが、先程の利用状況を聞くと、市民にとって便利だと思います。

出来れば市内の北にお住いの方、阪神電車を使われない方にとっては、地理的に別の場所があれば尚、便利ではないかと思います。

(梓委員長)

阪急電車の近くにはないのですか？

(事務局 丸尾)

現在、阪急よりも北側にはありません。

(梓委員長)

検討の予定は？

(事務局 丸尾)

返却ポストは分室等、施設と一体化したものが一番理想的ですが、今回の設置した独立型のポストでは容量が限られているので、本があふれてしまわないように管理が必要ですし、屋根がないと本がダメージを受けてしまいます。

また、人目がないと何を入れてもわからない恐れがあります。

たばこ等入れられてもわかりませんし、他の図書館では返却ポストがゴミ箱と間違えられたという事例もあります。こうした事を防ぐためにも、お話したような設置条件を満たす場所でないと難しいと思います。

(梓委員長)

そうですね。設置条件が難しいですね。しかし利用が増えたというのは便利になったと思いますね。

(事務局 丸尾)

そうですね、まずは設置出来たことは大きいと思います。

(梓委員長)

他に何かご意見ありませんか？

(松本委員)

返却ポストが何かな？と思うほど地味だったので、本を返却できるのだというわかりやすい工夫があればもっといいですね。これが本の返却ポストなのだ、図書館はそういう事をしているのだ、ここで本が返せるのなら図書館へ行ってみようとなれば、なおいいなと感じました。

(北里委員)

返却ポストに模様はあるのですか？

(事務局 丸尾)

いいえ。今は何にもないです。

(梓委員長)

大きな本のマークや柄があればいいですね。

(事務局 丸尾)

今は返却できない資料について等、利用の際の案内が入っています。

(梓委員長)

「図書館の返却ポストです」という本のマーク等を入れられるといいかもしれません。

(北里委員)

あそこにあるガラス張りの写真コーナーは見ますが、文字だけだと通り過ぎてしまいますね。

(梓委員長)

視覚に訴える形のマークなど、また考えていただければ。返却ポストだとよく分かるような少し派手なマークがあればいいですね。

返却ポストに関して他にご意見はありますか？

(熊本委員)

回収は毎日行かれるのですか？

(事務局 丸尾)

もともと本館、打出、大原の分室、公民館図書室、上宮川文化センター図書室との間で予約本等の本を、車で運んでおりまして、今までは週5回でしたが、物流の回数を増やし週6回にしました。返却ポストに返していただいても、コンピュータによる処理が行われるまでは、貸出中のままなので、回収の間が空くと延滞本になってしまう事もあります。現在はインターネットからも利用状況がわかりますので、そういったタイムラグの苦情が来ないかと心配していたのですが、現在のところ特にありません。

(熊本委員)

図書館での返却が減って、そちらが増えたのか、それとも前より延滞が減って返却率が良くなったのでしょうか？

(事務局 丸尾)

延滞は変わっていないです。返却ポストを設置したことで、特に増減していかないように思います。本館のポストは返却が遅れた本が結構返されています。延滞本を返す際、図書館員と顔を合わせたくない心理が働いているように思います。

(梓委員長)

返却ポストを置いた為に、今までは図書館に来て本を返すついでにまた借りるというのがありましたが、返却ポストがあまり増えすぎると本館に来られなくなるのかなと思います。返却ポストを利用されるのもいいですが、図書館に来て頂きたいという思いもあります。返却ポストの件で他にありませんでしょうか？

(白水委員)

六甲道駅の近くのコンビニは図書館の本を返せるのですが、雨宿りで入ったときに、女性が三冊か四冊借りていた本をスーパーのビニール袋に入れて濡れたまま返却ポストへ返していたのを見かけて、扱いが乱雑なのが気になりました。

(梓委員長)

対面する人がいないデメリットもあると思いますね。返却ポストを増やすのも難しいですし、図書館にできるだけ来ていただく工夫をして頂けたらと思います。では、ポストの件はこれくらいでよろしいでしょうか？蔵書点検で報告がありましたけど、この点でなにか質問ございますか？

(松本委員長)

不明本が減ってよかったですね。

(梓委員長)

減りましたものね。でも新着本の不明が気になりますね。

(松本委員)

減ったとはいうものの、なくなるのは悲しいですね。

本がないのは、返却が遅れていたものかと思っていたが、明らかに見て持って帰ってという形なんですね。

(事務局 丸尾)

貸出ミスの場合もあり、返ってきて不明本とわかる事もあります。不明本の傾向を見ると綺麗な本がなくなっていますので、対策を考えました。今までは新着本を受け入れてそのまま配架していましたが、一定期間、日をずらして置くようにしました。現在はインターネットから予約できますので、新着本なのに本を提供できないという事が起きますと、本の管理について不信感を与えかねないということで、苦慮しています。極力、巡回も行っています。

(梓委員長)

趣味や料理の本は手元に置いておきたい本があるからでしょうね。対策としては以上でしょうか？

(事務局 丸尾)

新着本コーナーに置かず、直接書架に置くなどもしています。

(梓委員長)

新刊が入っていないと心配されるのでは？

(事務局 丸尾)

あるジャンルにのみ絞っています。

(梓委員長)

しばらくの間、新刊のマークはつけないのでしょうか。

(事務局 丸尾)

つけていません。新着本は外から見ただけではわかりません。職員が検索すれば。受け入れの日付でわかりますので、そういう形でご案内はできます。

(梓委員長)

一度それを試されてみていいでしょうね。それで紛失しないほうがいいですね。

(事務局 丸尾)

不明本対策として、職員から新着本コーナーをなくすのはどうかという意見もありましたが、なくさない方向で工夫して対策を考えています。

(熊本委員)

新着の本がなくても、その本の紹介を書き下さったり、図書館の人のいる真横に置いて下さったらわかるのですが。

(梓委員)

いいですね。棚など設置して新着本希望の時は、申し出て下さいという形にすればいいかもしれません。

(松本委員)

写真に撮った背表紙を新着本の紹介に使って、実物の本は書架に入れていません。

(梓委員長)

書店でも外のカバーだけを展示しているところがあります。新刊本を前に出しているとなくなってしまうので。そういうのも一つの方法ですね。

(梓委員長)

2つほど案が出ました。新刊が入ったことは市民の皆さんも知りたいでしょうから、制限をかけないのが一番ですが、新着本がなくなるのは困るので、市民の方にも協力していただくようにしなくてはならないですね。

(松本委員)

ポストを派手にするなら、新刊本の紹介が欲しいです。図書館便りなどがあれば、一般の方はなかなか入手する機会がないので、返却ポストにお知らせを貼る、チラシを取れるようにする等、宣伝できるような工夫があれば、いいですね。返して終わりではなく、次にまた借りようという事になればいいなと思います。

(北里委員)

ポストには人がいないので、今あったような工夫があれば次につながると思いますし、子供の頃、本を返しに図書館に行った際、図書館の人から「これを読んだのなら、次はこの本ね。」と本を薦めて貰った事があり、それが好みにも合っていたので、理想は人を介して、少しでも本なり図書館に繋がる何かあればと思います。

(梓委員長)

返却ポストにも情報を貼るということですか。

(北里委員長)

図書館の職員の方にも、何かあればいいなと思います。自分が子供の頃、経験したような本の紹介などがあれば。

(梓委員長)

本当は読書案内という図書館のサービスがあります。本をお薦めするというサービスは、相談に来られたらいいのですが、返却カウンターの方がサービスができるかどうかというところなんです。レファレンスの担当の職員であればできますが、返却か貸出かきっちり分かれているところだと難しいですね。返却ポストがたくさん増えてもどうなのかというところはありますが、図書館に結びつく工夫をしていただきたいという提案が出ました。

(水谷委員)

すみません。資料305ページ本館カウンター業務委託料というのは为什么呢。

(事務局 丸尾)

図書館本館につきましては毎週火曜日、月曜・火曜の祝日はカウンター業務を委託しております。これらの日については、職員はカウンターに立っていません。常に知った顔がカウンターにいればいいのですが、本館職員と業務委託者も含めると大所帯になってしまい、利用者と顔見知りになるのが難しい部分もあります。巡回を兼ねてですが、フロアワークを行って、本を探している子どもに声を掛けるなどして対応しています。

(梓委員長)

大きな図書館だと専任の児童サービス担当者がいて、子どもへのサービスが出来るのですが、芦屋市の場合は小さくもなく大きくもない規模の図書館なの

で児童サービスの専任の職員がいる訳でもなく、読書サービス専任の職員を育てる人員確保も難しいでしょうが、本来なら、そうした職員がいるとコミュニケーションのとれるいい図書館になれるのですけどね。フローワークをされているということなので、当面はそれをしていただき、新着本の紛失もなくなればよいですね。それでは今年度の事業報告は終了ということにさせていただきます。三番目その他ですが、図書館から特に審議の中身はないですか？

(事務局 丸尾)

特にありません。

(梓委員長)

ないようでしたら、図書館に対してこうあって欲しい提案・ご意見などありましたら、どうぞ。

(白水委員)

今日のお話の中で疑問がいくつか解決しました。普段図書館利用していて新着本に紹介されていた本がなくて、マニアックな本しか残っていないなど感じていたのと、ネットで予約してもずっと順番が回ってこないことがあり、買った方が早いのかなとあきらめてしまう事も多いのですが、どなたかが紛失されているか、図書館に残っていない本なんだなというのがわかりました。

(梓委員長)

そのような事情を利用者の方になかなか言えないので、図書館の方は悩んでいる状態だと思います。この場で出来そうなものから対策していただければ。

(白水委員)

話が変わりますが、芦屋川の北側に有害図書のポストがありまして、それと、先程お話のあった返却のポストが同列に並ばれるのは寂しいですね。あれは捨てられる本、こちらは生きて循環していく本なので、そこが分けできるといいですね。

(梓委員長)

有害図書ポストは結構目立ちますね。先ほど提案のあった表示等、工夫をしていただけると良いですね。

(事務局 丸尾)

検討してみます。

(梓委員長)

図書館に来て欲しいというのがあるので、対策をしてほしいですね。

(松本委員)

I T C関係の会議で図書館通帳の紹介があり、子どもが本を借りたら通帳みたいになっていて、借りた本など記帳されるもので、いいシステムだなと思いました。読んだ冊数が目に見えれば励みになるのではないかと。導入可能であ

ればどうかなと思いました。

(事務局 丸尾)

学校図書館の場合ですと、読書指導等で有効に使える部分があるかもしれませんが、公共図書館としましては利用者の読書記録は残さない、利用者のプライバシーを守るという立場にありますので難しいかと思います。

(梓委員長)

学校では可能であるかもしれませんがね。小さなカードのようなものであっても子どもにとっては嬉しいかもしれません。

(松本委員)

学校ではリストとしては出していません。以前は図書カードで貸出記録を残していましたが、今は図書システムが入りましたので、本人が記録として残したい場合は自分で書いていますがリストとしてはないです。

(梓委員長)

学校図書館でも個人の記録は残さないというのは、公共図書館に準じています。自分で記入する分には、いいのではないかなと思います。

(松本委員)

リストを見ながら、こういう系統を読んでいるからという形でお薦めはしやすいですね。

(梓委員長)

子どもとはいえ、そのような形で使うのは、個人情報という部分では難しいですね。

(北里委員)

小さな図書館で、児童書を読んでいたら、その姿を見ていた図書館司書の方から本を紹介していただいた事があります。その方は私が何を読んでいるかご存知なかったと思いますが、先ほど通帳の話があり、びっくりしました。私は子どもの時から本を読めと言われたことはないのですが、本がないと落ち着かないので、読書記録のノートも作っていました。本の一文や心に残った文章を書き留めたものは、40 数年たっても忘れていないものもありますので、幼い時に本に出会った事が自分を支えているのではないかと思います。通帳とか強制ではなく、本を読んだ子どもでも大人でも何かしたくなるような環境や図書館の人の声掛けがあればいいなと思います。

(梓委員長)

今、機械化にしていく部分と人と人とのコミュニケーションが必要になっている部分と両極端になっているのでしょね。機械化になって手が空いたところでコミュニケーションができるように職員の力が向けばいいのですが。機械化されて、人員が少なくなるのは寂しいですが、先程あったご意見のようなご

希望は持ってらっしゃるかもしれませんがね。特に子供の方や高齢の方などは。

(事務局 丸尾)

案内登録のカウンターで忙しくしていると、子どもも気を遣ってタイミングを見計らって来てくれる事があって、申し訳なく思う時があります。

(梓委員長)

職員に「これありますか？」と聞いて頂くのが一番いいのですけどね。

(事務局 丸尾)

フロアワークをしていますと、よく尋ねて来られます。カウンターにいると気を遣って声をかけづらいという方も潜在的にいらっしゃるように感じます。

(水谷委員)

本の貸出というのは、専門の方を介して新しい本と出会うという図書館の大きな仕事だと思いますが、逆に本を介して人と出会うのが図書館の働きになればと思います。図書館に足を運んで欲しいなあと思います。いろんな方が来られ、図書館で過ごされるという、例えば、金曜シネサロンや親子の行事などの事業をされていますが、主催者側として、どんなことを感じておられますか？

(事務局 丸尾)

図書館の役割として、本の貸出以外の事を求められていると考えています。地域の人達が図書館を利用することによって、さらに地域を活性化させるとか、そういう情報の拠点としての図書館が求められていると感じています。集会行事ですが、親子で楽しむおはなしの会や絵本の会は、子供と保護者を対象にしている行事です。絵本については対象年齢が低いという事もあり、お母さんに対して絵本のリストを渡したり、子どもの本について尋ねられた件についてお答えしたり、そういう形で職員やボランティアが関わっています。ボランティアの方から、「親子で楽しむ」という形で広報してしまうと親子でないと参加できないと思われるのではというご意見がありまして、大人だけでも子どもだけでも参加できるという点をPRすることにしました。お話や絵本に興味のある大人の方に図書館の主催行事のおはなしの研究会やこどもの本の研究会等に参加していただいて、ボランティア活動や地域の活動につなげていけたらいいなと思っています。

(水谷委員)

「親子で」と書いてあると、行きたくても行けないと思っていました。

(梓委員長)

どこかに「1人でも」「大人だけでも」参加できるという案内があるといいですね。

(事務局 丸尾)

今年の広報から変更して、案内を入れるようにしました。

(熊本委員)

本の詳細ががわかっていれば聞きやすいですが、そうではない場合、カウンターに聞きづらいので、コンシェルジュのような人がいればいいなと思います

(梓委員長)

本来はレファレンスサービスというのがあるのですが、一般的にはわかりませんよね。ちょっと聞きたいという利用者もおられるかと思います。

(事務局 丸尾)

芦屋では今のところ専任の担当者はいません。カウンターに入る職員全員が対応するという体制となっています。案内・登録のカウンターにお越し下さいという案内になるかと思いま

す。

(梓委員長)

案内に「調査」と書いてあっても、一般的には分からないと思います。「読書案内」とか「本の案内」とか専門的でない、平易な表現がいいと思います。

(事務局 丸尾)

他の図書館ではクエスチョンマークだけ表示しているところもあります。表示については考えてみたいと思います。

(梓委員長)

先程からご意見を聞いていると「ちょっと聞きたい」「ちょっと読書案内して欲しい」というフロアでの対応を必要とされている利用者が多いのだと感じましたので、人手の無いところ申し訳ないと思いますが、何か対応を考えていただけたらと思います。

(北里委員)

私は図書館をよく利用するのですが、子ども達は図書館員に尋ねていいということすらわかっていなくて、本を探している場面に出くわします。一緒に探したり、カウンターに行けば図書館の人が探してくれると話すのですが、「案内・登録」という意味が分からないようです。もっと平易な言葉だと子どもも行きやすいのかなと思います。

(梓委員長)

平易な案内表示を考えていただいて、館長には館内を回っていただくという事で。こういったご希望が多いということは、結局はアナログな図書館ですよ。そういう事も合わせてサービスに取り込んでいただくようお願いいたします。基本はそこにあるのではないのでしょうか。それでは、以上で閉会させていただきます。